

版瓦塾結災防驛飛南

下呂市防災士会基本理念

1. 我々は、自助・共助協働を自ら実践し、地域の減災と防災力向上に貢献する。
1. 我々は、防災士として、常に防災知識と技術の習得に研鑽する。
1. 我々は、下呂市の防災文化の構築に努め、後世に継続する。

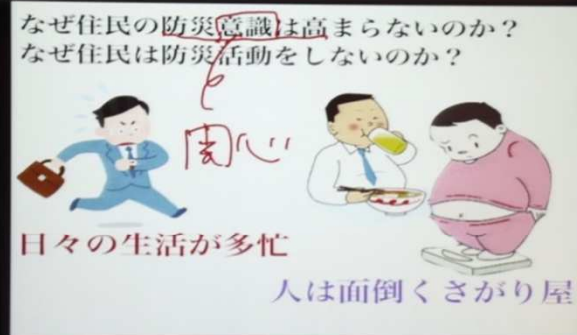


下呂市防災講演会『地域づくりと～地域力で災害を乗り越える』 H28.10月28日

下呂市主催 下呂市自治会連合会・下呂市防災士会共催

下呂交流会館に於いて、山口大学の瀧本浩一准教授による講演会が開催されました。

『我が国は有史以来から度重なる災害に遭いながらも、災害に対して事前に備える事を怠ってきた。古典文学の方丈記にも、大火、辻風(竜巻)、水害、飢饉、地震など災害に関する記述が数多くあるが、人間は時間がたつにつれ忘れてしまうものである。今こそ過去の災害に学び、地域力をもって防災を』と語られ、地域の防災活動を継続していくためのヒントを映像を示して紹介された。また、家庭のキーパーソンである主婦層を取り込んだ防災活動が有効であるとも云われました。片時もひとところに留まることなく動き回られ、時には声が返るほど力のこもったエネルギッシュな話しぶりに聴衆者の皆々が圧倒されていました。



瀧本浩一

当日頂いたサイン

下呂市消防団『萩原方面隊5分団4部(桜洞)が県大会に出場』 H28.8月7日

第65回岐阜県消防操法大会が多治見市星ヶ台運動公園であり、県内各地から選出された消防団29隊145名が小型ポンプの部で出場した。下呂市からは、萩原方面隊5分団4部の団員5名が夏の太陽が照りつける下で、規律や動作の機敏さ標的を倒すまでの時間を競い合いました。

勤めを終えてからの夜間や、休日の厳しい訓練の成果をいかに発揮し、14位と健闘しました。

下呂市消防団の自然災害・人為災害を問わない郷土の守りは、市民に大いに期待されることでしょう。



下呂市消防団 萩原方面隊第五分団第四部 一同

♪戸締りよーじん♪火のよーじん! 保育園児が防火パレード H28.11月9日

秋の全国火災予防運動に合わせ、「かなやまこども園」の年長と年中組の園児74名が金山町内で防火啓発パレードを行いました。まといを振りまわし先導車の音楽に合わせて、拍子木を打ち鳴し元気いっぱい歩く姿はどの子どもとても可愛く、沿道の人たちは目を細めて眺め、保護者たちは盛んにカメラを向けていました。1時間半かけて約2kmを歩いて園舎に戻った園児達は少し疲れ気味でしたが、消防車の前に仲良く並んで記念写真に納まっていた。町村合併前から南消防署の呼びかけで行っているもので、女性防火クラブ員や女性消防団員も応援に駆け付けて園児の見守りなどに協力していました。



2016年度防火標語

消しましょうその**火**その時 その場所で

年中 たんぽぽ組

南支部イコスタデー出展 H28.10月16日

金山町商工会青年部が主催して毎年10月に行う商工祭で、南支部は3度目の出展をしました。今回は消防団金山方面隊との合同出展でした。消防団は、若年層への入団の募集キャンペーンを主に、非常食の展示や試食などを行いました。

本会は、災害時や断水時のトイレ提案・下呂市付近の断層地図・熊本地震被災写真・ロケットストーブの展示などを行った。

なかでも注目を集めたのは、災害時トイレの提案でした。来訪者は災害時用の段ボール便器や、油缶利用の便器に座って使い心地を確かめて、納得されていました。



南支部が救急救命再講習 H28.11月27日

防災士5名が南消防署で再講習を受けました。5年ごとに改定されたガイドライン2015に従って、傷病者発見、周囲の安全確認、意識確認、応援要請、呼吸の確認、胸骨圧迫、人工呼吸、AED装着と久し振りの実技に息を弾ませていました。その後異物除去や止血法など3時間の講義を終えました。



ガイドラインの主な変更点抜粋

2010⇒2015(太字)

- ・少なくとも5cm沈むほど⇒**圧迫の深さは「5cm」の深さで。**
- ・少なくとも毎分100回のテンポで⇒**圧迫の速さは「100～120回/分」のテンポで**
- ・胸がすっかり戻るまで、⇒**胸壁が完全に元の位置に戻るように、圧迫と圧迫との間に胸壁に力が掛からないようにする。**
- ・追加⇒人工呼吸の訓練を受けており、行う意思のある場合は人工呼吸を組み合わせる。
- ・追加⇒**胸骨圧迫比率が、60%を超えるように。**

下呂市内の24時間対応AED設置個所紹介

H28.11月30日現在

(設置管理者の掲載承諾済)

市内のAEDは150数台ありますが、一部を除き夜間や休館休日は外部から借受が出来ない状態です。紹介する施設は、いつでも借受が出来きます。救急車を要請し現場到着迄に全国平均で約8分を要しています、その間に傷病者の近くに居合わせた者が、少しでも早くAEDを使った救命処置が行えます。

屋内設置であるが、屋外から薄板を割って取り出す(3例)



正面玄関左側

窓枠の薄板を割る



職員室出入り口右側

窓枠の薄板を割る



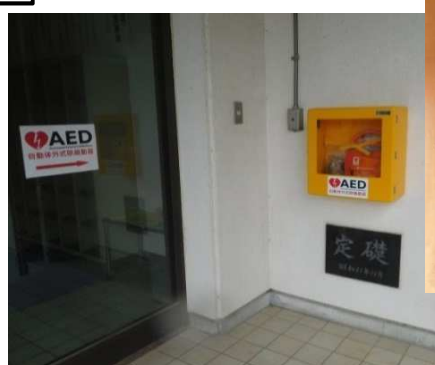
正面玄関左側

郵便受けの薄板を割る

建て物の外壁設置(6例)



正面玄関左側



体育館玄関右側



学童昇降口左側



体育館玄関右側



体育館玄関右側

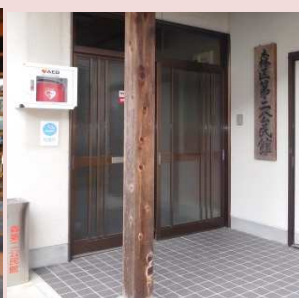


校舎2階渡り廊下の正面体育館外壁

下呂・森区の屋外設置4例



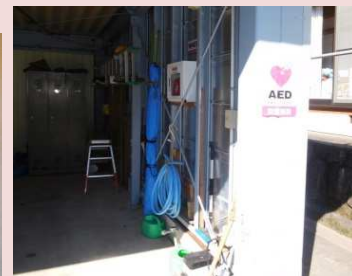
森集会場



森第二公民館

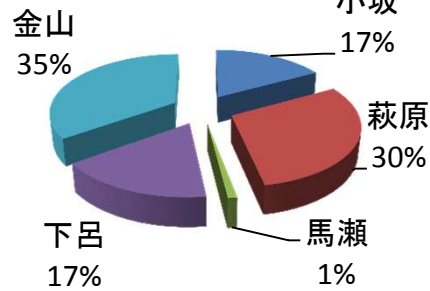


殿町公民館

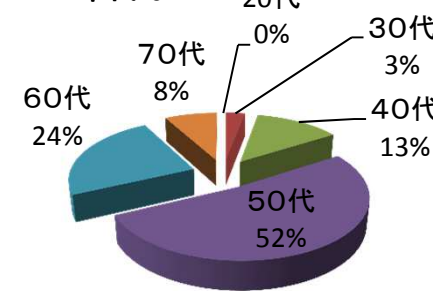
森 大洞地区
二村登美夫氏車庫

おらんとこの自主防災 (防災士会アンケート回答集計) 回収率61.7%

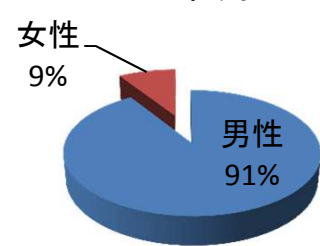
Q1 お住まいの地域



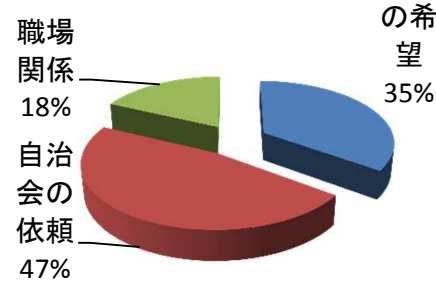
Q2 年代は



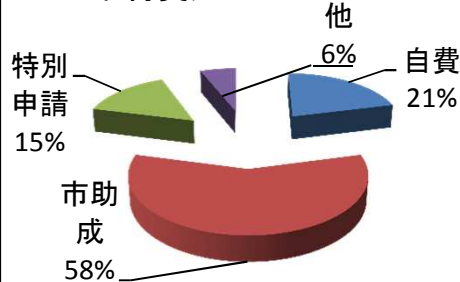
Q3 性別



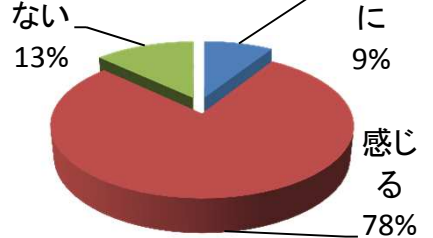
Q4 防災士のきっかけ



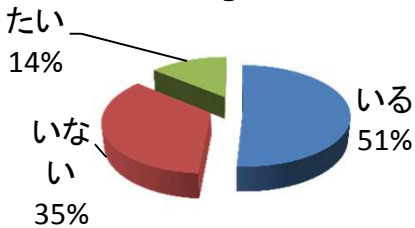
Q5 取得費用は



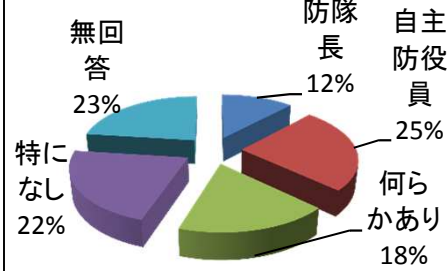
Q6 防災士としての活動意欲



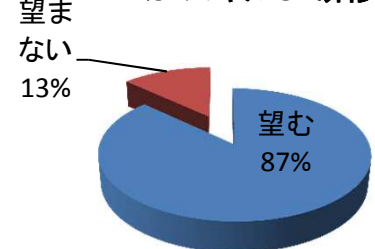
Q7 自治会で活動出来ているか



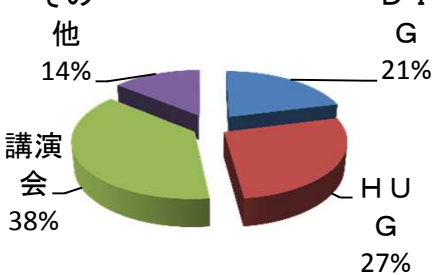
Q8 地域での位置付



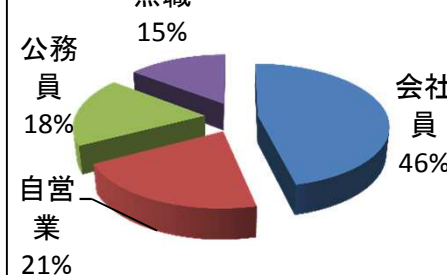
Q9 スキルUP研修を



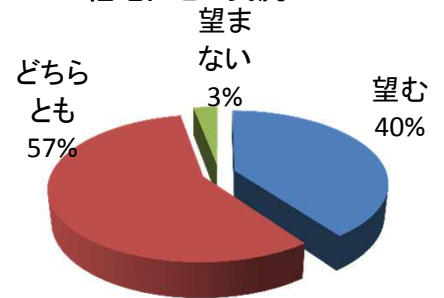
Q9-2 どんな研修を



Q10 職業は



Q11 他地区との交流



全防災士会員のアンケートの集計がようやくにしてみました。Q12はグラフ表示が無いが、防災士会に思う事などを述べて頂きました。行政頼りの体質から脱皮すべきとのご意見が数件あり、アンケートを行政からの要望と感じた会員がおられたようであるが、防災士会からの発案で実施したものです。行政の働き掛けで出来た組織であり、また、自治会から頼まれて防災士になった会員が半数近くあること、地区で防災士を登用していないことがQ7.Q8で伺えます。Q11において他地区との交流をあまり望まないのは、頼まれ防災士が多いことの結果であろうか。Q3のように女性防災士の小数も今後の課題とされます。今後本会は「量より質」を目的とした、スキルUP研修などを計画実施すべきと考えます。

(編集後記) 取材途中での立ち話で、社会的に信用があり相談役のような方から「災害が起きたら防災士に助けてもらう」と云われた。「エーッ!」と思わず絶句。災害時は「自分の命は自分で守る」の意味がまったくお解りでない(>_<) 防災を自分の事とせず、他人に委ねている人々の何と多いことか。我々防災士はこのような人達に「防災は自分事ですよ」と粘り強く伝えるのが最重要任務と考えます。

連絡先 E-mail tuneki-jh2oqm@seiryu.ne.jp ☎090-2578-1601 ラインOK 広報担当 金子恒紀